

ヒヤリ・ハット事例

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項
1	高速道路で (首都高速)	運転中	昨夜の就寝時間が遅かったのに、今朝の起床が早かった為、突然眠気に襲われた。	翌日の作業等に応じて、十分な睡眠をとる。
2	高速道路で	現場から工場へ帰る為、トラックを運転中	荷台のシートのゴムが切れた。	古いゴムは早めに代え、点検を怠らない。
3	高速道路で (東名高速)	約80kmで走行中	現場で回収したパネルを、長物だったので斜めにして荷台に乗せたところ、風に煽られシートが外れて飛ばされ道路へ落下した。後続車への被害はなかったが、危うく事故になるところだった。	シート内に収まらない長物等を積んだ時は、ロープでしっかりと固定し、速度を抑えて運転する。
4	現場内のヤード で(中央区)	石膏ボードを2m ³ コンテナからダンプ車へ積み込み中	前日に雨が降っていたせいか、コンテナから足を滑らせ転倒しそうになった。	雨が降った時などで足元が濡れている場合には、石膏ボードの粉が滑りやすくなる為、十分注意して作業にあたる。
5	一般道路で	片側一車線道路の交差点で信号待ちをしている時	信号が青に変わり発信しようとしたら、右側後方から突然バイクが現れ、自車の前に割り込んできた。	交通ルールを守らないバイクは多いので“右側からは来ない。”という思い込みを捨て、周囲の状況は常に確認する。
6	現場で	ダンプの荷台に乗って積み込み作業中	下から廃棄物を上げてくれていたのに気付かず、後ろを振り返った時に転倒してしまった。荷台の煽りを上げていたので落下はしなかったが、危うく怪我をするところだった。	前方だけでなく、後方にも注意を払う。荷台で作業をする時は、必ず煽りを上げてから行う。
7	一般道路で (青梅街道)	片側三車線道路の、右追い越し車線を走行中	停留所よりバスが発進し、ウイinkerを出しながら中央車線へ車線変更したと思ったら、そのまま強引に自車の前へ割り込んできた。接触するかと思いヒヤっとした。	「まさか前まで来ないだろう」のだろう運転をやめる。
8	現場で	トラックの荷台でシート掛けをしている時	シートのゴムが足に絡まり、下に落ちそうになった。	単純な作業でも、慎重に行動する。
9	自社駐車場で	車両メンテナンスをしている時	グリスガンの入らない箇所を無理にやろうとしたら、顔にグリスが飛んできた。	無理な力技をしない。
10	高速道路で	運転中	前方走行中の車両が急ブレーキを掛けたので、ヒヤリとした。	車間距離はしっかりとって走行するように心掛ける。
11	自社工場内で	選別作業中	シューターへコンクリートがらを投入したら、手選別している作業員が側にいてヒヤリとした。	声を掛けるなどして必ず安全確認をする。ラインが止まっている時に投入作業を行う。
12	自社工場内で	分別作業を開始しようとした時	作業員が機械の詰まりを除去しようとしていたのに気付かず、開始操作をしてしまった。	操作責任者の正副を決めて表示を行い、無線所持者は管理者へ連絡を入れる。①運転者の明確化②安全確保の教育③プザーの増設を行った。
13	自社工場内で	振り機のスクリーン清掃中	足場がないので、機械の上に乗って清掃しようとしたら、振動で滑り落ちそうになった。	振り機の横に足場を設置した。

ヒヤリ・ハット事例

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項
14	自社仕分け作業場で	搬入トラックの煽りを開閉中	すぐ横でショベルが土砂をかき上げたら、ガラが転がってきて足に当たりそうになった。	横に作業員がいる時は、ショベルでかき上げない。作業員は、ショベルと逆の位置で煽りを開ける。
15	他社処分先の駐車場で	敷地内の警備車両専用駐車場に停車した時	車両から降りようとしたところ、強風に煽られ運転席側のドアが勢いよく開き、隣の車両に接触しそうになった。	警備専用駐車場へ停止する車両は、周囲の状況をよく確認し、他車両との間隔を十分に開ける。
16	自社工場内で	駐車をしようとバックしていた時	2 t ダンプが急に現れ、接触するところだった。	誘導者はいるが、誘導が途中で終わる場合もあるので、指示の徹底が必要である。誘導者に全てを任せず、自分でも周囲の状況確認を行い、危険を回避するよう注意する。
17	自社工場内で	積荷のシートを取り外す時	足が滑ってトラックから落下しそうになった。	安全帯の使用場所を確保する。
18	他社処分場内で	トラックにてヤードへ進入しようとした時	近くを走行していたフォークリフトが、自車後方に接触した。幸い怪我はなかったが、事故に繋がる場所だった。	ヤード進入時には必ず一旦停車し、誘導者を設置する。
19	自社付近で	市道を左折しようとスピードを落とし、橋を渡ってから川沿いの細道へ進入しようとした時	細道の角にある自動販売機で、飲み物を買っていた子供が急に走り寄って、自車の前を横切ろうと飛び出してきた。以前からこの場所は危険だと思い、十分注意をしていたので事故にはならなかったが、もう少しで惨事になるところだった。	子供だけでなく、自転車等にも十分気を付ける必要がある。また、一時停止と安全確認を怠らない。
20	現場で	2 t パッカー車で収集作業中	緩やかな下り坂の途中で車両を脇に寄せて駐車し、助手と二人で車両から離れて廃棄物を回収しに行き、戻ってきたら車両が勝手に動き出しており、慌てて乗り込んでブレーキを踏み、サイドブレーキを引きなおした。	たとえ緩やかな坂であっても、駐車する場合はサイドブレーキだけでなく、輪留めをするかエンジンを切りギアを入れるよう心掛ける。
21	一般道路の交差点で（高尾街道）	右折しようとしている車両の一台後ろで、対向車の直進を待っていた時	信号が黄色に変わり、前の車両が交差点へ進入し始めたので、自車も速やかに右折しようとしたら、既に信号が赤に変わっており左から直進車が突っ込んできて、接触しそうになった。	矢印信号のない交差点では、無理に交差点へ入った右折待ちは非常に危険である。安全に右折するには、次の青信号を待つようにする。
22	荷降ろし現場で	クレーン操作中	マグネットが前方に振れ、車両の荷台と接触した。	車両等付近での作業は、誘導やミラー等で確認しながら行う。
23	現場で	トレーラーの荷降ろし作業中	気が付いたら、頭上でクレーンが作業していた。	無線等で確認し合い、互いに注意を払う。
24	自社工場内で	重機の操縦中	車内が暑くなったので上着を脱ごうとしたら、レバーに引っ掛かりブームがガクンと下がった。	操縦時以外は安全レバーをロックする。
25	中間処理施設で	大径物破砕機切換シュート部分を、ケレンで清掃後に引き抜こうとした時	片手（左手）だけでケレンを持って引き抜こうとした為、ケレンの先端部分が点検口に当たり、そのはずみでケレンの柄が眼鏡の左側に当たり、眼鏡フレーム及びレンズを破損した。	原因としては①危険予知の不足②作業方法に問題あり③慌てていたこと④注意不足 の4点である。よって対応・対策として、ケレンを使用する際には両手で持ち、清掃後は落ち着いてゆっくりと引き抜くよう安全作業の徹底をした。
26	片側一車線道路で	渋滞の中走行中	左側歩道を走行していた自転車が、車道に出てきてこちら側に倒れそうになり、接触寸前でブレーキを踏み停止した。	道路交通法の改正により、一般的に自転車が車道を走行する事を想定した運転をしなければならない。

ヒヤリ・ハット事例

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項
27	建設現場地下内で	コンテナ（アームローラー車）積み脱着作業時	シートを掛けられていた荷台が天井スプリングクラーに接触しそうになった。	積荷の高さが山積みで、この場合アームローラー作業前に安全な高さを考え、荷降ろしする必要がある。排出者に積荷の高さ制限をお願いする。
28	一般道路で（町田市）	住宅街走行中	細い道路から大通りに出るT字路に突き当たったところで、安全確認をしようと少し前に出て覗きこんだら、自転車が突然視界に入り接触しそうになった。	死角になる箇所では、目視（視覚）だけでなく、窓を開けて耳（聴覚）で聞くようにし、危険を回避する。
29	高速道路で（長野自動車道）	走行中	前方を走行していたバスのタイヤがバーストし、破片が自車トラック前まで飛んできた。	車間距離を十分にとるよう心掛ける。
30	自社工場内で	トラックからドラム缶を降ろそうとしている時	ドラム缶から液が漏れていた為、ゴム手が滑ってドラム缶が倒れそうになった。	ドラム缶やゴム手袋などの水分は、ウエス等で拭き取ってから作業を開始する。
31	工場内	排気ダクトの清掃作業中	取り外したダクトをフォークリフトのバレットに乗せるため、リフトの爪の高さを調整しようと座席に乗ろうとしたが、作業着が汚れていたのを座席が汚れていると勘違いし、座らずにエンジンを掛けた。その時、既にギアが前進に入っており、前にいた作業員と接触しそうになった。	座席が汚れていれば拭き取る。フォークリフトのエンジンを掛ける場合は、座席でギアを確認しブレーキペダルを踏んでから行う。
32	現場で	4tアームローラー車の積荷にシートを掛けている時	コンテナの縁が凍結していたのに気付かず、足をとられて地面に落下し、足首を痛めた。	荷台に搭乗する場合は（安全確認を怠らないよう）足元に十分注意して作業する。
33	自社構内で	フォークリフトでの荷降ろし作業中	フォークリフトで荷を降ろし、置き場所を考えながらバックしたら、停車中のトラックへ衝突しそうになった。	荷を降ろす前に置き場所を決め、余裕を持って行動する。安全確認の実施。
34	液処理作業構内で	薬品の調合作業中	液体薬品の中にフレーク状の薬品を投入して調合する際、フレーク状の塊が液体薬品の中に落ち、薬品が飛散した。	調合する場合は、あらかじめフレーク状の薬品を小分けにしてから投入する。
35	自社構内で	屋外で作業中	通常は、ロックピンで固定されている門の大扉がロックの掛け忘れにより、強風で道路側に動き出した。	大扉のロックピン忘れ防止策を実施。
36	自社工場内で	選別ヤードからフォークリフトで荷を運ぶ為、場内走路へ出ようとした時	左右の安全確認をしようと停止したところ、荷降ろしの終わったお客様の車のスピードに“ハッ”とした。	お客様には、引き続き場内最徐行のお願いを徹底していく。フォークリフト運転手には、場内走路は常に車両の出入りがある事を喚起し、安全確認を徹底するように指導した。
37	回収ルートを走行中	回収終了後、次の現場へ向かっている途中	信号も横断歩道もない道路を、自転車が無理やり横断してきた。	安全確認をしっかり行う。
38	一般道路の交差点で（四谷三丁目）	直進車線だったのが右折車線へ変わるレーンだった為、中央車線へ車線変更しようとした時	左側走行車線の後方車両も、自車と同じ中央車線へ車線変更しようとしていた為、もう少しで接触するところだった。	周囲の安全確認はしっかり行う。車線変更は、ゆっくりと行う。
39	病院の地下で	廃棄物の保管場所まで、スロープの上をバックで進入している時	細いスロープだったので、サイドを気にしながらバックしていたら、後ろから台車で上がってくる作業員に気付かず、接触しそうになった。	注意を常に心掛け、バックモニターのない車両の場合は、一時停止で後方をよく確認してから進入する。

ヒヤリ・ハット事例

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項
40	一般道路で	夜、走行中	カーブの終わりに、ハザードランプもライトも点けていない車が停車しており、追突しそうになった。	周囲の状況をよく把握し、予測運転を心掛ける。
41	一般道路の交差点で（港区）	左折しようとした時	左方向から、自転車が赤信号を無視して勢いよく自車の前を通過したので、急ブレーキを掛け停車した。	安全確認を十分に行い、周囲の確認を怠らない。
42	一般道路で（豊島区）	左側車線を走行中	右側車線を走行していた車両が、強引に自車の前へ車線変更してきて、そのまま左に寄り急停車した。	車間距離を十分にとり、周囲の状況をよく確認する。
43	現場で	フォークリフトで、コンテナを外に移動中	作業員が目の前に飛び出してきた。	安全確認をしっかり行う。
44	高速道路の合流地点で	パッカー車で本線を走行中	渋滞中だった為、通常は本線と加速車線で一台ずつ合流するのがマナーだが、強引に自車の前へ二台合流してきて、接触しそうになった。	合流地点ではお互い譲り合い、十分な車間距離をとる。自分の常識や思い込みに注意する。
45	一般道路で	追い越し車線を走行中	左側車線を走行していた車両が、分岐に差し掛かったところで、突然自車の前に割り込んできた。	車間を十分にとり、分岐の手前では周囲に気を配る。
46	一般道路で（足立区）	一車線道路を走行中	自転車が道路の隅を走っていたのに気付かず、接触しそうになった。	周囲の確認をしっかり行い、自転車や歩行者の側を通る時は、ゆっくり通過する。
47	一般道路の交差点で（足立区）	車で、信号待ちをしていた時	信号が青に変わり、左折しようとして発進したら、急に自転車が飛び出してきた、ヒヤリとした。	脇見運転や先急ぎ運転に注意し、無理な進入をしない。
48	一般道路で（江戸川区）	走行中	狭いトンネルに入るところで、対向車と衝突しそうになった。	トンネルに入る前は、十分スピードを落とし、対向車の有無を確認する。もし対向車がいなくても、譲るくらいの気持ちで運転する。
49	一般道路で（足立区）	走行中	左側が直進で、右側が右折車線となっている二車線道路の交差点を真っすぐ通過し、そのすぐ先に停車していた車両を避けようとしたら、交差点で右折車線にいた筈の車両が直進してきて、接触しそうになった。	急な車線変更をするのにも問題はあるが、交差点付近では十分な確認を行い、安全運転を心掛ける。
50	一般道路で（川口市）	交差点を左折しようとした時	自転車が、自車の左脇をすり抜け、直進して行った。危うく巻き込むところだった。	自転車や歩行者は、突然予測できない行動をとる場合があるので、特に注意する。
51	一般道路で	交差点を直進しようとした時	赤信号にも関わらず、自転車が飛び出してきた。	左右の確認をしっかり行い、交差点を通過する時にはスピードを落とす。
52	一般道路で（品川区）	二車線道路の左側車線を走行中	右側車線を走行していた車両が、突然自車の前に車線変更してきて、追突しそうになった。	車間距離を十分にとるよう心掛ける。

ヒヤリ・ハット事例

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項
53	一般道路の交差点で（足立区）	夜、交差点で右折待ちをしている時	右折の矢印信号が点灯したので発進しようとしたら、無灯火の自転車が自車の右側を通過しようと、すぐ傍まで近づいていた。	ミラーだけでなく、目視での確認も必ず行う。
54	一般道路の交差点で（墨田区）	信号待ちをしている時	右折の矢印信号が点灯したので加速して右折しようとしたら、信号の変わりが早く、前車が急停車したので追突しそうになった。	周囲の状況にも気を配り、信号だけに気を取られることなく、ゆとりある運転を心掛ける。
55	一般道路の交差点で（墨田区）	右折車線で信号待ちをしている時	右折の矢印信号が点灯したので発進しようとしたら、バイクが突然目の前に現れ、ヒヤリとした。	信号が青に変わっても、周囲の安全確認はしっかり行い、直ぐに発進せずゆとりを持った運転を心掛ける。
56	一般道路で（墨田区）	信号のない交差点を通過しようとした時	小学生が、左右の確認もせずに手を挙げながら横断してきた。接触等の心配はなかったが、ヒヤリとした。	交差点付近は、歩行者や自転車がいつ横断してきても安全な速度で走行する。
57	一般道路で（渋谷区）	狭い道を走行中	路上駐車の際を通り抜けようとしたら、車の陰から人が飛び出てきた。	狭い道は徐行し、何かあるかもしれないという予測運転を心掛ける。
58	自社出入り口付近で	トラックで、会社の外に出ようとした時	警備員の合図で公道に出たが、右側から走行してきた車両を止めることができなかったようで、接触しそうになった。	警備員だけに頼らず、自分でも確認を行う。
59	高速道路の合流地点で（中央区）	左側車線へ入ろうとした時	サイドミラーで確認後、左にハンドルを切ろうとしたら、すぐ横に乗用車が走行していた。もう少しで接触するところだった。	ミラーの角度が合っていなかったのが原因でもあるが、ハンドルを切る前に死角を目視で確認すること。
60	一般道路で（千代田区）	交差点を左折しようとした時	右側からの歩行者を通して、前進しようとしたら、左側を確認したら、左ミラーレスレの位置にも人がいた。	秒単位で状況が変わる為、安全確認はその都度行う。
61	一般道路の交差点で（足立区）	走行中	通過しようとしたら、バイクが交差点内で突然停止し、追突しそうになった。	信号が青でも、交差点を通過する時はスピードを落とし、周囲の安全確認は必ず行う。
62	高速道路で	追い越し車線を走行中	左側車線から、ウインカーも点けずに突然自車の前へ車線変更をしてきた。	周囲の状況確認は常に行い、車間距離を十分にとる。
63	自社作業場で	液状廃棄物を保管ピットへ投入するのに、ドラム缶の蓋を空ける作業をしていた時	作業中の重機（バックホー）がバックで接近してきて、ドラム缶と重機の間にはさまれそうになった。	重機を移動する場合は、オペレーターが合図を出し、作業員が手を上げた事を確認後に移動する。作業手順書を作成し、安全教育を実施する。
64	一般道路で（江東区）	左折車線で信号待ちをしている時	信号が青に変わったので、前方車両に続いて発進したが、自転車が歩道を横断した為、前車が急停止し接触しそうになった。	信号が青に変わっても、慌てずにゆっくり発進し、前車との間隔は適正に保つ。
65	現場で	高所で汚泥吸引作業をしている時	吸引車のホースが暴れ出したので押さえようとしたら、足を滑らせて下に転落しそうになった。	高所作業では、必ず安全带・ヘルメットを着用し、無理な体勢で行わない。

ヒヤリ・ハット事例

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項
66	一般道路の交差点で（神奈川県）	走行中	信号が赤に変わったので速度を落としていたら、前車との5m程の車間に、突然歩行者が飛び出してきて自車の前を横断していった。	特に、歩行者は時々予想外の行動に出るので、危険予知に務め周囲の状況をよく確認し、どのような場合にも対処できる運転を心掛ける。
67	自社工場内で	重機にて幹回り40cm以上の伐採木を集めている時	重機ハサミで伐採木を挟み込んだら、数本の木が飛び散った。周囲に人は居なかったのに、事故にはならなかった。	重機作業をする場合は、必ず人払いを行う。重機ハサミを扱う時は、多くの物を無理して挟み込まない。
68	一般道路で（横浜市）	信号が青に変わり、発進しようとした時	赤信号を無視して、左側から猛スピードで目の前を車両が通過した。	たとえ信号が青でも、優先道路であっても、一呼吸おいてから安全確認を行い、発進するよう心掛ける。
69	他社ヤード内で	天井クレーンが稼働中に	ショベルが荷を押し上げるのに接近してきた為、クレーン爪とショベルバケットが接触しそうになった。	作業開始前は、指差し呼称などで必ず安全確認を行う。
70	荷受けヤード内で	フォークリフトで荷降ろし作業中	後方よりショベルがバックで接近してきた為、接触しそうになった。	重機等で作業する場合は、エンジンを停止するまでが作業とし、注意力を持って行う。
71	高速道路で（品川区）	三車線道路の真ん中車線を走行中	左側車線から大型車が急に接近してきたので、右にハンドルを切り危険を回避した。	相手の死角を走行しない。
72	自社倉庫内で	分別作業中	フレコンバックの帯に足を引っ掛け、転びそうになった。	歩行スペースを広くする。
73	現場で	エレベーターによる搬出作業時	廃棄物の入った袋をエレベーターに入れようとしたら、袋が開いてしまい、廃棄物がエレベーターの隙間に落ちそうになった。	袋の口は閉じているか、穴が開いていないか、破けていないかチェックを行う。また、ロープ等で縛ってある場合は、緩みがないかチェックする。